

OROS

NVGateV10.10

リリースノート

2017. 2

コンテンツ	
イントロダクション.....	1
概要.....	1
新しい機能.....	2
チームワーク機能.....	2
OR35-TW.....	2
N + 2.....	2
Wi-Fi.....	2
バッテリーの動作時間.....	4
測定中のファン停止の設定を保持.....	4
運搬中などの不適切なハードウェアの起動を防ぐ.....	4
カスケードモードでの次数トラッキング.....	5
次数比分析.....	5
その他機能について.....	5
時間領域による信号補正.....	5
言語選択.....	6
Default Project の signal の保護.....	6
新しい NVDrive コマンド.....	6
1 つのファイルに ATFX 結果を出力する.....	6
TEDS DS2431 チップへの対応.....	7
修正.....	8

イントロダクション

NVGate V10.10 は 2016/11 月にリリースされました。本バージョンで、新たなチームワークアナライザーの OR35-TM が仲間に加わりました。また、カスケードモードでの次数トラッキングが行えるようになりました。

このリリースノートでは、NvGateV10.10 の機能について説明をします。

概要

NVGateV10.10 は全ての OR30 シリーズで利用することができますが、ハードウェアのオプションやバージョンにより使用できない機能が存在する可能性があります。

本アップデートでは以下のような改善がされています。

チームワーク

新モデルの OR35 (N + 2 チャンネル)

Wi-Fi での動作

バッテリーの動作時間

即提示のファン停止設定

不適切なハードウェアの起動を防ぐ

カスケードモードの次数分析

次数比分析

その他

時間領域での信号補正

言語設定

デフォルトプロジェクトにおける信号保護

NVDrive のコマンドを追加

64bit への対応

レポートの選択

1D の結果で全てのトレースをコピー

リボンを表示/非表示

ひとつのファイルへ ATFX エクスポート

DS2431 チップを用いた TEDS センサーへ対応

新しい機能

チームワーク機能

このバージョンアップによりチームワークアナライザの機能が強化されました。

OR35-TW

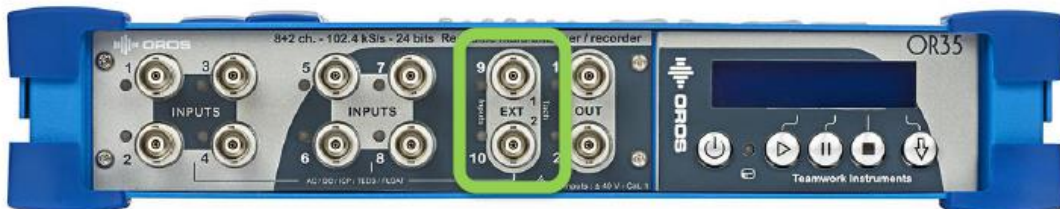
新しいモデルの OR35-TM を使用するには、NVGateV10.10 以上が必要なことに注意してください。

N + 2

OR35-TM はアナライザの固有の入力チャンネル(モデルにより 8CH もしくは 4CH)に加え、さらに 2 つの入力チャンネルを持っています。この入力チャンネルは Ext 入力(外部タコ)と BNC 端子を共有しています。

この構成により、以下のような柔軟な設定が OR35-TM では可能です。

1. Ext 入力で、トリガー、タコ、ネジリ、角度サンプリングを行う。
2. 一般的な入力端子を2つ分拡張し、10 チャンネルでの測定を行う。
3. トリガー信号を表示しながら閾値を調節するために、一般的な入力とトリガー端子の両方として使用する。

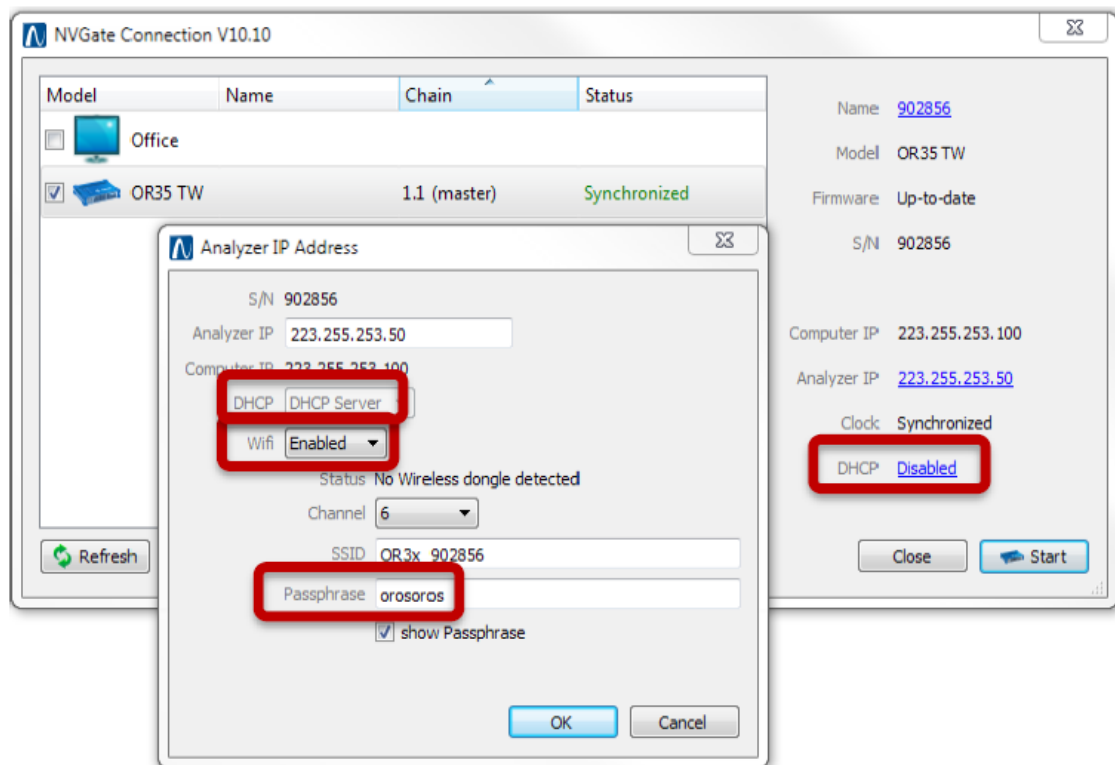


N+2 チャンネルは「入力接続」ダイアログの入力タブから設定することができます。

Wi-Fi

チームワークアナライザ(OR36V3、OR38V3、OR35TM)は、NVGateV10.10 で、Wi-Fi での接続が可能です。Wi-Fi 接続には USB-WiFi が必要なことに注意してください。詳細は東陽テクニカまでお問い合わせください。Wi-Fi での接続をする前に以下の手順でアナライザの設定を変更してください。

1. PC とアナライザをイーサネットケーブルで接続してください。
2. アナライザ接続ダイアログが表示されます。
3. DHCP サーバーを選択します。
4. Wi-Fi を有効にします。
5. パスワードを入力して OK をクリックします。



6. Wi-Fi ドングルをアナライザ背面の USB ポートに差し込みアナライザを再起動してください。
7. PC の Wi-Fi 接続を確認してください。アナライザの SSID が表示されます。



8. Wi-Fi からアナライザを接続してください。アナライザ接続ダイアログで設定したパスワードを使用してください。

Type the network security key

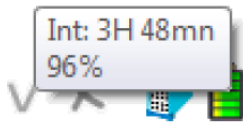
Security key:

Hide characters

9. NVGate を起動する前にイーサネットケーブルを取り外してください。
10. NVGateV10.10 を起動します。
11. アナライザ接続ダイアログから Wi-Fi でアナライザを利用できます。

バッテリーの動作時間

新しいモデルの OR35-TM はリチウムイオンバッテリーを搭載しています。これにより、より長い駆動時間と正確なバッテリー管理ができるようになりました。OR35-TM を接続すると画面の右下のバッテリーアイコンにマウスカーソルを重ねることによって、NVGate はバッテリーの残量と動作時間を表示することができます。



測定中のファン停止の設定を保持

チームワークアナライザー(OR36V3、OR38V3、OR35TM)では、静音性の高い環境で音測定をする場合、レコード中や測定中にファンを停止することができます。ファン停止の設定は、NVGate からではなくアナライザのディスプレイから行います。

ディスプレイに"System OK"(または"D-rec")と表示されたら、"Setting menu()"から、"Fan menu()"に移動します。"STOP ON RUN"を"Mode()"ボタンから選択します。ファンの測定中のスピードを調整してハードウェアの冷却を向上することもできます。

ファンスピードとファン停止の設定はハードウェアに保存されます。

運搬中などの不適切なハードウェアの起動を防ぐ

チームワークアナライザー(OR36V3、OR38V3、OR35TM)は、ハードウェアの運搬中に不適切に電源が入ることを防ぎます。この機能は、キャリングバックの中でハードウェアが予期せず起動しないようにします。

1. アナライザがバッテリーのみで電源を入れるときに確認を行います。
2. アナライザを起動するために電源ボタンを長押し(1 秒以上)すると、アナライザのディスプレイにバッテリーで動作させるかの確認が表示されます。Yes を選択するか NVGate でアナライザを接続することを選択するとハードウェアが起動します。

3. もし、5分以上確認のレスポンスが得られない場合、または確認で No を選択した場合は、アナライザは電源をオフします。

カスケードモードでの次数トラッキング

次数比分析

V10.10 では、“チームワーク”のカスケードモードで、次数比分析およびトラッキングを実行できます。前バージョンの NVGate と同様に、カスケードモードではインターフェースは 100%統合されません。

次数比分析は角度領域で信号をリサンプリングするためにタコメーターを要求します。このタコメーターは、カスケードされた任意のアナライザに接続できます。なお、コンビネーションタコ(CTE)は、異なるTW上に接続されたタコメーター同士で使用できます。

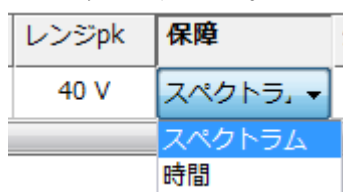
その他機能について

時間領域による信号補正

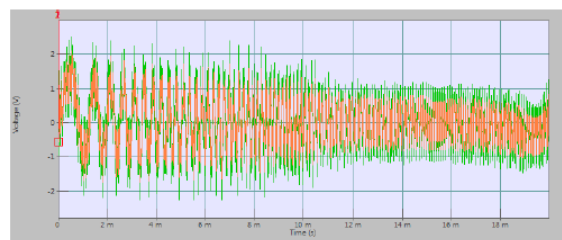
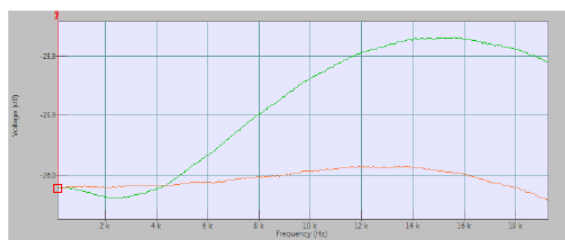
OROS 3X シリーズはダイナミックアナライザ(スペクトル結果)として正確な結果を取得します。スペクトル結果の計測精度は、スペクトル(複素数、1/n オクターブ、次数比)の校正により得られます。

ある平均スペクトルの同じダイナミックは持たないので、時間/角度 領域結果(生波形、トリガブロック、オービット、シャフトビュー)を調節する必要はありません。しかし、大きな振幅レンジ(+/-40 V)の場合、時間領域信号は電子回路の影響を受けます。

+/-40V レンジピークで時間領域を使用できるようにするために、保障項目で次のように設定ができるようになりました。



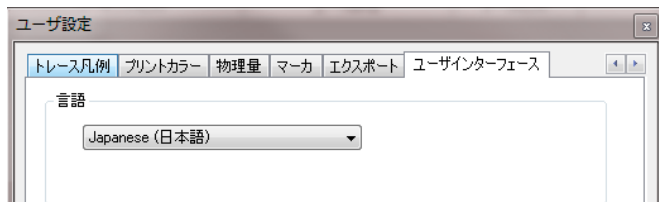
- スペクトル スペクトルを修正します。仕様: $<\pm 0.1 \text{ dB} / <\pm 0.4^\circ$ @20 kHz 以下
- 時間 時間領域信号で修正します。



- ▶ Spectral domain redressed
- ▶ Time domain redressed

言語選択

NVGate V10.10 から言語選択の方法が変更されます。選択は一般/ユーザ設定/ユーザインターフェイスで行えます。



利用可能な言語はコンボボックス内に表示されます。各言語の翻訳ファイルについては各地の販売元にお尋ねください。

注意:いくつかの言語は利用できません。

Default Project の signal の保護

別の PC にインストールされた NVGate で記録した生波形を default project にダウンロードすると、NVGate 終了時に信号データを削除してしまいがちです。信号データの削除をさけるため、プロジェクトに紐付いていない信号を default project 上にダウンロードができないようにしました。

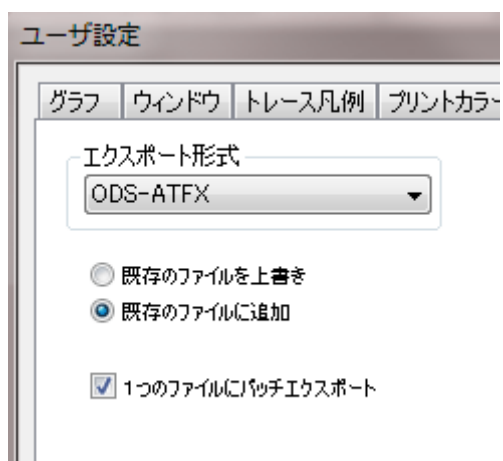
新しい NVDrive コマンド

新しい NVDrive コマンドの詳細については、NVDrive リファレンスマニュアルをご参照ください。

- ・64 Bit への互換性
- ・対象となるレポートドキュメントの選択
- ・1次元結果の全てのトレースデータコピー
- ・リボンメニューを隠す/表示
- ・電圧値での入力レンジ取得

1つのファイルに ATFX 結果を出力する

UFF、Txt、wav 形式と同様に、1度の計測で1つの ATFX ファイルに複数の結果をエクスポートできるようにします。



TEDS DS2431 チップへの対応

最近、PCB センサーに使用される TEDS メモリチップが、DS2430 から DS2431 に変わりました。NVGate V10.10 では、どのタイプのハードウェアでも、両方のバージョンの TEDS チップが使用できます。

修正

以下の修正が NVGateN10.10 で行われています。

- 9694 入力が無効になっていない場合は、キャリブレーションをロックします。
- 9238 カスケードビューによるモニタリングの再スタート
- 9222 変位 mm を参照したプロファイルは、桁が正確ではありません。
- 9375 新しいリボンセーブグループ
- 9592 角度周波数アプリケーションは v10 および v9 の信号では機能しません
- 9446 .sdf の信号のエクスポートが遅い
- 9486 名前を変更するために “結果の保存” 上で変更するか、有効にするために “Enter” を押す。
- 9367 1 つのファイル内に同じプロジェクトの ATFX 結果をエクスポートする
- 9483 演算子を使用してオクターブスペクトラムの平均をする時の C エラー
- 9383 C 言語に対応する為ツールキットのヘッダーファイルを修正
- 9297 グラフの凡例をエクスポートすると “時間” がなくなる
- 5531 レポートの情報にトレースの日付を表示する
- 9471 グラフ上でカーソルを動かした後に NVGate がシャットダウンされる
- 9473 カーソルで右または左クリックしたときに NVGate がクラッシュする
- 9277 スループットオーバーロードの為マルチレコーディングが停止する
- 9298 16 個レコードを取るとマルチレコードが停止する
- 9380 プロジェクトを読み込む時にトランスデューサの感度を適用する
- 9121 OR38-V3 の負荷の大きい構成のせいで、ウォーターフォールの結果が表示も、保存もされません。
- 9281 自動エクスポートデータ
- 9410 オーバーオール値の 0-pk 表示
- 9243 NVGate の負の減衰比
- 9427 データファイルが同期しなくなる
- 9134 回転が停止している間のねじれ測定のステップ
- 9310 ズームしたウィンドウにカーソルがない
- 9284 ウォーターフォールのグラフをすべての軸に適用
- 9259 特定のプロジェクトでポスト解析に切り替える
- 9283 グラフ上の Z 軸を変更すると NVGate がシャットダウンする。
- 8950 データロガーの結果をエクスポートしようとする時 NVGate がシャットダウンする。
- 9181 平均周波数または、時間の次数比分析の語彙がおかしくなる
- 9084 オーバーオールのボード線図と 1 次のボード線図を重ね描きするとクラッシュする
- 8828 DEWESOFT で生成された UFF ファイルをインポートできない。